



園庭に元気な声と満開の桜

「今年の桜は、どうしたのかいな。4月の入園式(入学式)まで咲いているなんて。」と、皆さんの声が聞こえてきます。幼稚園の今年の桜は、開花が遅かったことが幸いし、始園式にも何とか咲き誇り、元気な子どもたちを迎えることができました。春休みに静まり返っていた園庭に、子どもの元気な声が戻ってきました。やはり、幼稚園には、子どもの元気な声が一番です。

らいおん組のお父さん方に、去年の春に咲き終えたチューリップの球根を、11月にテニスコート横に植えてもらったところ、赤、白、黄色の花が咲きました。夏の間、乾燥させ、保存していましたが、なにせ小粒でしたから、どの程度の花が咲くか自信はありませんでした。植えた球根の半分ほどが、花開き、どうにか、始園式、入園式には間に合うことができました。

さて、始園式当日の玄関前は、どのクラスに配属されているか、期待に胸を膨らませながら、親子で、クラス表を見つめる姿が見られます。まるで大学の合格発表を見ているような光景です。親子で、そして、保護者同士での話題の中心は、友だちは誰と一緒に、担任の先生は誰かです。どのクラスも、新しい友達や新しい先生と一緒に、新たな歴史を作ってもらいたいと思います。本園には、伝統的な活動がカリキュラムに組み込まれています。年中さんは、直ぐに始まる芋づくり。そして劇遊びから発展した劇作りが12月に待っています。年長さんは、油山登山、米作り、お泊り保育、竹馬乗り、ミニコンサートなど、毎月、大きな活動が目白押しです。

子どもは素晴らしいよさと可能性を持っています。大人が、こうしなさいと決めるのではなく、子どもの自主性を尊重し、進級した学年で、どんなことをしたいのか、どんなことができるようになりたいのか、どんなことに挑戦したいのか等、親子で話し合ってみましょう。



66人のお友だち、ようこそ

11日(火)の入園式に、年少さん63人、年中さん3人の新しい友だちを迎えました。この日から、晴れて、筑女大附属幼稚園の仲間入りです。

「入園おめでとうございます。」

入園式当日は、生憎の雨でしたが、園庭の桜の木の下は、美しい桜の絨毯ができていました。雨に打たれても幼稚園の桜は見事です。4月のこの時期に桜の花が満開というのは、何十年振りでしょうか。今年はそういう意味では、大変ラッキーでした。

一昔前の日本は、桜といえば入学式、入学式といえば桜という具合に、桜と入学式は切っても切れない関係でした。国際的には、9月入学式が多い中、日本が4月入学式にこだわってきたのは、桜との関係が深かったからです。

入園式では、学園の理事長が、子どもたちにも分かる易しい言葉で語りかけられましたので、子どもたちも静かに話を聞くことができました。また、福岡教区福岡教務所長様は、浄土真宗本願寺派総長の祝辞を代読されるのが通例ですが、今年は、所長ご自身の言葉で、子どもたちに分かる内容の話をされました。お二人とも、その場の雰囲気を見て、ノー原稿で語られましたので、私自身が、いい勉強になりました。私は、今年で4度目の入園式を迎えましたが、子どもたちは、大人の話をよく聞くことができましたと思います。しかし、子どもたちにとっては、本園職員による手遊びやパネルシアターが一番の楽しみです。それまで、ざわついていたのがピタリと止まり、職員のパフォーマンスに注目し、親子で楽しんでいただきました。中には、立ち上がって、踊り出す子もいました。

式後、各クラスで、担任の話です。初めての担任による読み聞かせにも、しっかり耳を傾け、話を聞くことができました。また、先生からのプレゼントには、どの子も、にっこり笑顔でした。14日に全員揃い、202人の幼稚園号が新たな船出をします。今年度も、ご支援をよろしくお願いいたします。

